

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法 (中高)			13854	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭、中学校教頭、小学校校長			

授業の到達目標

教育課程の意義や編成の方法を学び、カリキュラムマネジメントの重要性を理解する。また、教育課程における総合的な学習の時間の位置づけや意義を理解し、指導計画の作成の仕方を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）とK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程の果たす役割や機能、意義を理解し、公的な性格を有する学習指導要領を学ぶ。さらに、学習指導要領の歴史的な変遷や諸外国との教育制度の比較から、現在の教育課程の意図を考察する。そして、教育課程における「総合的な学習の時間」の模擬編成に取り組む。

授業計画

- 1 はじめに、教育課程とは
- 2 教育課程に関する法律
- 3 教育課程の歴史(学習指導要領の変遷)
- 4 総合的な学習の時間について
- 5 総合的な学習の時間の実践事例Ⅰ
- 6 総合的な学習の時間の実践事例Ⅱ
- 7 総合的な学習の時間とカリキュラムマネジメント
- 8 地域社会との連携と総合的な学習の時間のあり方
- 9 各学校種における教育課程(幼稚園、小学校)
- 10 各学校種間における教育課程(中学校、高等学校、特別支援学校)
- 11 教育課程の編成と評価
- 12 学校種間の連携・部活動と教育課程
- 13 今日の課題と教育課程
- 14 諸外国の教育課程(欧米・中・韓)
- 15 教育課程の模擬編成演習とプレゼンテーション、まとめ

授業の方法

毎回レジメを配布し、授業を行う。

準備学修

図書館等で、日本や諸外国の教育制度等の参考文献を調べておく

課題・評価方法、その他

平常点(70%)、定期試験(30%)

欠席について

事前、事後に届け出る

テキスト

中学校学習指導要領解説(総則編)最新版
中学校学習指導要領解説(総合的な学習の時間編)最新版

参考図書

今、求められる力を高める総合的な学習の時間(小)文部科学省編
教育出版
今、求められる力を高める総合的な学習の時間(中)文部科学省編
教育出版
今、求められる力を高める総合的な学習の時間(高)文部科学省編
教育出版

留意事項

配布したレジメや資料をファイルしておく

教員連絡先

matsui@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	ET		13851	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	神戸市教育委員会指導課指導主事 文科省中央教育研修会参加、文科省海外派遣教員			

授業の到達目標

子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の方法、子ども理解、教育評価等について学修し、授業の設計技術を修得する。さらに、多様な教材の活用を通じて授業展開の方法を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティーのA（自立）とI（知性）を養う。

授業の概要

学校教育の理念に基づいた教育を実践するための方法や知識を身に付け、基礎的な学習理論と指導技術を学ぶ。

授業計画

- 1 教育方法論の歴史
- 2 カリキュラム論
- 3 学習指導要領について
- 4 教育課程と教科外(総合的な学習の時間、特別活動)の授業の役割
- 5 教科書と学校教育の関係
- 6 授業の構造論
- 7 学校における集団学習の意義と方法(組織、計画、指導体制)
- 8 教育技術論
- 9 情報教育の内容と構成について
- 10 授業の方法と実践について
- 11 学力と教育評価について
- 12 特別支援教育
- 13 授業実践と考察(道徳・人権)
- 14 子どもの人権(虐待、いじめ、体罰、不登校)
- 15 学校教育の課題と考察・まとめ

授業の方法

毎回レジメを配布し授業を進め、レポート作成やロールプレイに取り組む。

準備学修

中学校学習指導要領(総則編)を読んでおくこと

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること

テキスト

なし

留意事項

授業中に配布した資料をもとに毎回レポートを作成する

教員連絡先

mhori@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論 (中高)			13853	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	神戸市立学校教員指導力改善指導員、中学校長、神戸市教育委員会指導主事、神戸市公開異人館副館長			

授業の到達目標

社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応する教育施策の動向を理解する。また、公教育が果たしている社会制度的な意義について考察し、学校教育の基本的な知識を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

公教育の意義、原理、構造について法的な仕組みや基礎的な知識を学ぶ。さらに、学校と地域との連携の取り組みかの中から学校安全の在り方や危機管理について考察する。

授業計画

- 1 学校教育と公教育について
- 2 教育行政の仕組みについて
- 3 教育改革の歴史概要
- 4 学校教育における法制度について
- 5 学校の組織と運営について
- 6 学校における教員の在り方について
- 7 学校経営と教師力
- 8 学校と地域の連携について
- 9 学校教育の評価について
- 10 変容する子どもの生活と教育的な課題
- 11 安全教育・安全管理の取り組み
- 12 保護者対応から連携について
- 13 災害時に学校が果たす役割について
- 14 学校における危機管理のあり方
- 15 開かれた学校づくりについて・まとめ

授業の方法

毎回配布したレジメを中心に授業を進める。レポートを書くこと、グループディスカッション等を多く取り入れる。

準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べたり、レポートを作成したりすること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること。

テキスト

なし

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度、レポートを重視する。授業中に配布したレジメ等の資料を整理しておくこと

教員連絡先

mhori@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職中等		13852	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

中高の児童・生徒が自己理解を深め、さらに他者受容へとつなぐ受講生に子どもの心理的な特徴や課題を引き出し支援する基礎的な知識と技術を身につけるようになることをめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）をめざす。

授業の概要

日本には数多くのカウンセラーの資格があるが、来談者が望んでいることは、心の叫びやつぶやきをきちんと受け止めてくれることであろう。対人専門職をめざす者は、現在の主たるカウンセリング理論を概観した上で、自分に合ったスタイルの技法を学び続けてほしい。授業では、事例を多く採り入れて、実践に生かせるよう学習する。

授業計画

- 1 学校での教育相談を学ぶにあたってその意義を理解する。
- 2 学校独自の課題の把握の必要性を学ぶ。
- 3 傾聴、共感など学校におけるカウンセリングマインドキーワードについて知る。
- 4 カウンセリングマインド等教育相談に必要な基本を体験する。
- 5 学校でのいじめで、児童・生徒のシグナルや早期発見方法を理解する。
- 6 個々の問題行動の本質理解に必要なカウンセリングマインドを生かしたコミュニケーションを体験する。
- 7 カウンセリングを通じて自己理解、他者受容する技術について知る。
- 8 気持ちの良いクラスづくりに欠かせない相互受容の大切さを理解する。
- 9 学級内を明るく気持ちの良い雰囲気にするための心理教育を体験する。
- 10 非行・問題行動の善後策としての保護者への対応の仕方を理解する。
- 11 学級崩壊が生じたときの教育相談としての役割を理解してその教育技術について学ぶ。
- 12 学校で虐待を発見する手立て、確認した後の動きや支援の在り方を学ぶ。
- 13 児童・生徒の発達課題を学び、保護者相談に生かせるように事例から学ぶ。
- 14 不登校などの問題を一人が抱え込むことがないように校内体制

の整備計画について学ぶ。

- 15 学校だけでは支援しきれない事案に備えて地域の医療、福祉等専門職との連携の必要性を理解する。

講義後に試験を実施

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議もとり入れて受講者が主体的に参加できる授業形式もとり入れる。

準備学修

子どもに関する社会問題等、自分の生活経験から判断するだけではなく、複数の視点で考える習慣を身につける。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する

参考図書

授業時に紹介する

留意事項

本授業は、教育現場では誰もが直面する課題を数多く取り上げるので、授業後に自分の考えを持つことが大切である。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導 (中等)	教職中	14231	IV	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
吉野 美智子 / 堀 正人	選択	1	神戸市教育委員会指導課教育実習担当主事 神戸市立学校教員指導力改善指導員・中学校長		

授業の到達目標

教育実習の事前及び事後の指導を通して、教育の社会的役割を認識し、教職への積極的な態度を養う。教育実習は、教職課程のいわば総仕上げとしての重要な意味をもつものである。大学で学んだ教育理論を教える立場に立つことによって、より深いものとして身につけ、学校という教育現場において、教育実践を通して学校教育についての理解を深め、教職への自らの決意と適性を確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA (自律)、I (知性)、及びE (倫理)を養う。

授業の概要

教育実習の実施計画に基づき、実習校において実習を行うための事前及び事後指導を行う。また、実習校における実習期間中に、本学の指導教員が実習校を訪問し、研究授業等の指導にあたる。

授業計画

- 1 教育実習事前指導①
- 2 教育実習事前指導②
- 3 教育実習事前指導③
- 4 教育実習事前指導④
- 5 教育実習事前指導⑤
- 6 教育実習事前指導⑥
- 7 教育実習事後指導①
- 8 教育実習事後指導②

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

- ・テキストについて、前時に指示された箇所を読んでおくこと。
- ・毎回、指示されたテーマについて各自が発表を行うので、その準備をしておくこと。
- ・中学校・高等学校の学習指導要領をもう一度よく読むこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点 (100点満点) は全体の20%とし、欠席は1回につき、20点減点する。遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『〔新版〕英語科教育実習ハンドブック』(大修館)
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』最新版
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』最新版
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、レポート、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎回の授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

教員連絡先

mhori@kaisei.ac.jp
myosino@kaisei.ac.jp